

第 3 回 科学技術関係人材専門調査会

平成 15 年 11 月 20 日

「産業界から見た 日本の大学院修了者の課題」

株式会社堀場製作所 会長 堀場雅夫

【 1 . 学生の問題点】

シュミレーション本位で実学に弱い。

就職活動を通じて初めて 実社会との関わりができる。

マスター修了者で、60 年代 70 年代の学部卒者と同等の能力。

卒業論文の内容 指導教官よりのあてがいテーマが多く、そのテーマの採択した
意味無理解。

就職が酷くなった割合に 就職の重要な認識がうすい。

有名校ほど 就職に対する真剣さがない。

探求心に欠け、深い掘り下げが不十分。

自らの目標設定がなかなかできない。

お膳立てがしてあるものには忠実に仕事をする。

壁にぶつかったとき、突破する気力、ねばりが不十分。

すぐに防御線を張り、多少でも無理が有る場合は飛込まない。

受答えにデジタル型返答が多く、返答の内容はリスク回避型が多い。

有名校に入学する事が勉強の一番のプライオリティ。

勉強する事は人生を ENJOY する為と思わず、入試・入社の為と考えている。

【 2 . 教育界の問題点】

多くの原因は社会の学歴偏重のトレンドにあり、教育界がそれに迎合している。

小中高の教育は全て大学入学する為の補助システム。

子供たちは自分の未来の人生を考えるより 有名校に入る事のみを目的にさせられている。

エデュケーションの本質、エデュースはほとんど考えられていない。

小中高で勉強の面白さを教えてくれる教師不足。

専門分野は進歩が早く 知識として持つのはよいが 基礎を十分に理解させる事がより重要。

大学の最大の欠陥は、学者、研究者、教育者の区別が無い。

一流の学者が必ずしも一流の教育者ではない。

「天は二物を与えず」という通り、二物 三物を持っている教育者は少ない。

マスター、ドクター、学者、研究者コースと、就職コースを一部分離。

インターンシップの活用。

大学ももっと真の市場指向型を考える（マーケットとは産業界と社会）

学生の特性を教授が充分理解せず 就職に対する学生にも企業にも情報提供不十分。

【3．産業界の問題点】

青田買いの申し合わせは、大企業が自ら破った利己主義。

その結果、大学の学修時間は いちじるしく削減されている。

有名校 又は関係の深い教官の推薦であれば 企業は学生を無条件で入社させる。

学生の特性を理解する為、企業は 指導教官と密接な関係が必要（ドクター）

企業側は 学生より 指導教官を選ぶ（ドクター）

4年学部卒者、マスター、ドクターの採用方式 分離案。

大学と産業界とで学生教育について常時 情報交換。要望を出し合い、大学の教育を共通の問題として取り上げる。